

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 7 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530848

研究課題名(和文) 歩行開始期・思春期の子どもとその親及び祖父母の世代性についての研究

研究課題名(英文) A study of generativity among parents, grandparents, and grandchildren in two cohorts

研究代表者

高濱 裕子 (TAKAHAMA, Yuko)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：10248734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：(1)歩行開始期・思春期の子どもをもつ親の感情体験は、歩行開始期では子どもが自己主張的、反抗的と感じる親ほど否定的な感情を経験した。思春期では3割の親が子どもの交友関係やいじめが気になると回答した。(2)精神的健康度から親と祖父母の関係をみると、祖父母は親よりも精神的に健康で、頻繁に親と連絡を取り合い、精神的に健康な親は子育てを楽しんでいると感じた。(3)親と祖父母の世代性の特徴では、創造性は若い世代が高く、世話と世代継承性は年齢の高い世代が高かった。(4)親と祖父母双方の需要と供給をダイアド・データによって検討すると、祖父母から親への援助頻度は社会文脈的な要因との関連はそれほど強くなかった。

研究成果の概要(英文)：(1)Negative feeling was experienced as those who recognized that their children were negativism and self-assertive. 30 percent of parents with adolescents answered that they were anxious their children's relationships and bullying in school. (2)When relationships between parents and grandparents were considered from mental health, grandparents were healthier than parents, and they were staying in touch with parents frequently. Mentally healthy parents recognized that child-rearing was pleasant. (3)Comparing the nature of generativity between parents and grandparents, the younger generation's creating score was higher than the older generation. The offering score and the generativity maintaining score were higher in the old generation. (4)The relation between supply and demand between parents and grandparents were examined using dyad data. As a result, frequency of the support from grandparents to parents, the relation with a contextual factor was not so strong.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：親子関係 世代性 3世代 歩行開始期 思春期

## 1. 研究開始当初の背景

生涯発達の親子関係を俯瞰すると、子どもの心身の発達的变化が顕著な時期(歩行開始期、思春期)には親の対処が困難になり、親子関係も悪化しやすい。本研究ではこれらの時期に焦点化し、親子の問題を親、子ども、祖父母の3世代の関係を視点にして検討する。多くの先行研究は親子関係の枠組み内で検討され、その結果、現代の親世代の養護性や養育力の衰退が指摘されてきた。またソーシャルサポートや社会資本といった概念は、祖父母による親世代への支援という側面は示したが、ネガティブな側面や孫との関係性についての検討は不十分であった。祖父母世代を加えることで、世代間の関係のダイナミズムや養護性の変化を捉えることができるだろう。

## 2. 研究の目的

子どもの心身の発達的变化が顕著な時期(歩行開始期及び思春期)に焦点化し、世代性概念を用いて親子関係、親(子)祖父母(親)関係、祖父母孫(親の子)関係を包括的に検討する。3世代それぞれの健康状態や人格的成熟度、自律性の発達、そして3者の相互関係を捉えるために、次の4点を目的とする。

- (1) 歩行開始期及び思春期の子どもをもつ親の感情体験とそれへの対処様式を明らかにする。
- (2) 子どもの自立性の発達に影響を与えると予想される親と祖父母の関係を検討する。
- (3) 親と祖父母における世代性の特徴、共通性あるいは差異性を検討する。
- (4) 社会資源の観点から、親の需要と祖父母による供給、あるいは祖父母の需要と親による供給との関係を検討し、類型化を試みる。

## 3. 研究の方法

参加者は2つの地区(関東地区と関西地区)でリクルートされた歩行開始期の子どもを

もつ親690人(平均年齢34.5歳,SD4.5,レンジ21-48歳)と祖父母204人(平均年齢63.1歳,SD5.7,レンジ45-83歳)そして思春期の子どもをもつ親721人(平均年齢43.8歳,SD4.2,レンジ34-54歳)と祖父母102人(平均年齢72.7歳,SD6.2,レンジ56-86歳)であった。調査は質問紙法で行われ、McAdams & de St. Aubin(1992,1998)に依拠して丸島(2009)が開発した世代性尺度日本語版(4件法による回答)などが用いられた。加えて、中学1年生と2年生合計2,405人(関東圏4校,関西圏3校)が質問紙調査に参加した。本研究の目的達成に係る方法論的に重要な点は、親子のダイアド・データを収集することであった。歩行開始期については親と祖父母の2世代データ、思春期については親、子(孫)そして祖父母の3世代データを収集した。また、親と祖父母の関係性の変容過程を検討するために、一部の対象者(祖父母20名)に面接調査を行った。

## 4. 研究成果

- (1) 歩行開始期・思春期の子どもをもつ親の感情体験は、歩行開始期では子どもが自己主張的、反抗的と認知している親ほどそうでない親よりも否定的な感情を経験していた。思春期では30%の親が子どもの交友関係やいじめが気になると回答したが、子どもの仲の良い友だちを知っている(大体知っているを含む)と回答した親は95%であった。
- (2) 精神的健康度から親と祖父母の関係を検討すると、祖父母は親よりも精神的に健康であった。精神的健康度の高い親の祖父母は、頻繁に親と連絡を取っていた。
- (3) 親と祖父母の世代性は、創造性、世話、世代継承性の3因子からなる構造をもっていた。2世代4グループの因子得点の特徴を比較すると、創造性得点は歩行開始期の親が最も高く、世話得点と世代継承性得点は思春期の祖父母が最も高かった。
- (4) 親と祖父母双方の需要と供給をダイア

ド・データによって検討すると、学歴、収入、健康度などは援助頻度と有意な関連がなかった。とはいえ親世代の年齢が低く、祖父母と親とが近居傾向にあるほど祖父母から親への援助頻度が高い傾向があった。祖父母から親への援助頻度は、社会文脈的な要因との関連はそれほど強くなかった。なお、2世代間の分配の類型化については今後の課題として残った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

高濱裕子・北村琴美・佐々木尚之・木村文香・

(2014). 歩行開始期の子どもをもつ親世代と祖父母世代の世代性. お茶の水女子大学人文科学研究, 10, 143 - 152. 2014年3月30日.

[査読有]

<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/52384?cp=2>

[学会発表](計 9 件)

Yuko Takahama, Kotomi Kitamura, Takayuki Sasaki, Fumika Kimura.

Comparison of the nature of generativity between parents and grandparents. The British Psychological Society Annual Conference. Birmingham, Great Britain. May 9, 2014.

江村綾野・高濱裕子・北村琴美・佐々木尚之・木村文香・歩行開始期及び思春期の子ども・親祖父母の世代性(8): 親世代と祖父母世代の精神的健康度と交流. 日本発達心理学会第25回大会. 京都大学. 2014年3月22日.

佐々木尚之・高濱裕子・北村琴美・木村

文香・歩行開始期及び思春期の子ども・親・祖父母の世代性(7): ダイアド・データによる世代間援助の分析. 日本発達心理学会第25回大会. 京都大学. 2014年3月22日.

高濱裕子・北村琴美・佐々木尚之・木村文香・歩行開始期及び思春期の子ども・親・祖父母の世代性(6): マッチングデータによる2世代の世代性の比較. 日本発達心理学会第25回大会. 京都大学. 2014年3月22日.

高濱裕子・北村琴美・佐々木尚之・木村文香・歩行開始期及び思春期の子ども・親・祖父母の世代性(5): 2世代の世代性の検討. 日本発達心理学会第24回大会. 明治学院大学. 2013年3月16日.

木村文香・高濱裕子・北村琴美・木村文香・歩行開始期及び思春期の子ども・親・祖父母の世代性(4): 親世代と祖父母世代のつきあい方と満足度. 日本心理学会第76回大会. 専修大学. 2012年9月11日.

佐々木尚之・高濱裕子・北村琴美・木村文香・歩行開始期及び思春期の子ども・親・祖父母の世代性(3): ダイアド・データにおける回答の信頼性. 日本心理学会第76回大会. 専修大学. 2012年9月11日.

北村琴美・高濱裕子・佐々木尚之・木村文香・歩行開始期及び思春期の子ども・親・祖父母の世代性(2): 子どもの反抗や自己主張場面における親の感情体験と対処法. 日本心理学会第76回大会. 専修大学. 2012年9月11日.

高濱裕子・北村琴美・佐々木尚之・木村文香・歩行開始期及び思春期の子ども・親・祖父母の世代性(1): 研究の概要. 日本心理学会第76回大会. 専修大学. 2012年9月11日.

〔ラウンドテーブル〕(計 1 件)

生涯発達と世代性について：2 世代データの  
分析結果から

企画責任・話題提供者：高濱裕子

企画・ファシリテーター：北村琴美

話題提供者：佐々木尚之・木村文香

指定討論者：氏家達夫（名古屋大学）

日本発達心理学会第 24 回大会・明治学院大  
学・2013 年 3 月 17 日。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高濱 裕子 (TAKAHAMA, Yuko)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科  
学研究科・教授

研究者番号：10248734

### (2) 研究分担者

北村 琴美 (KITAMURA, Kotomi)

大阪人間科学大学・人間科学部・准教授

研究者番号：80411718

### (3) 連携研究者

佐々木尚之 (SASAKI, Takayuki)

大阪商業大学・総合経営学部・助教

研究者番号：30534953

木村文香 (KIMURA, Fumika)

江戸川大学・社会学部・専任講師

研究者番号：70424083